

第 11 回 健康づくり推進協議会の概要報告

開催日	平成 30 年 12 月 19 日（水） 14：00～16：00
開催場所	群馬県公社総合ビル 4 階第 1 会議室
出席委員	小野寺委員、大村委員、佐藤委員（議長）、佐鳥委員、田代委員、津久井委員、都筑委員、宮坂委員、吉川委員、渡辺委員、佐藤委員（五十音順）
事務局	支部長、企画総務部長、業務部長、企画総務グループ長、企画主任、保健グループ長、保健専門職
議事	（1）平成 30 年度群馬支部データヘルス計画進捗状況について （2）生き生き健康事業所宣言事業所アンケート結果について （3）重症化予防（受診勧奨）対策取組報告について
議事概要 （主な意見等）	・支部長挨拶 →インセンティブ制度の説明を含めて挨拶 ■議事 <u>議題 1. 平成 30 年度群馬支部データヘルス計画進捗状況について</u> 資料に基づいて事務局より説明を行った。 主な質問・意見は以下のとおり。 【意見】 （学識経験者委員） インセンティブに影響を及ぼすため、データヘルス計画により各支部同じような取組を行っていると思われるが、他支部と比較した状況などを教えていただきたい。 また、取組の強い部分、弱い部分はどこか。 （事務局） 通年評価のため、特徴が捉えにくい。 （議長） 健診受診率の取組が弱いと思われる。 （事務局） ・本部が示した、29 年度支部評価の結果からは、群馬支部は保健部門のうち、健診は受診

率と伸び率を評価され、平均よりやや低い。更に指導実施率は大きな課題。実施率が最下位。反面、対象者の減少率と翌年度の健診結果の改善状況は良好。特に健診結果の改善は8位であるため、今後は実施件数を伸ばすことが課題である。

(保健医療関係者委員)

- ・インセンティブに係る評価において、受診率を高めると、伸び代が減り伸び率が厳しくなると思われるが。

(事務局)

- ・受診率と伸び率の評価配分が異なるため、受診率そのものが高い方が絶対的優位。

(行政委員)

- ・健康事業所宣言をすると金利優遇措置を受けることができるとの新聞記事を目にしたが、市でも優遇対応を検討しているため教えていただきたい。

(事務局)

- ・生き活き健康事業所宣言パンフを基に説明(宣言メリットその4、宣言事業所被保険者に対する宣言カードの配布等)。

- ・提携を組む協議の中で、自営業者が入っていないという指摘を受けたこともある。

議題2. 生き活き健康事業所宣言事業所アンケート結果について

資料に基づいて事務局より説明を行った。

【意見】

(行政委員)

- ・資料3(運輸業の状況)によると、宣言事業所の方が受診率が高いが、医療費も高くなる結果がでている。市としては、健診による早期発見により医療費を引き下げましようとする案内しており、アナウンス内容と実態が相違している。

アンケート対象データが部分的であるため、全体としての実態はわからないが、データ分析を継続して実態を把握する必要があると思われる。

(事務局)

- ・今後経年で分析を続けていく。また健診を受けて二次検査等の適正医療につながっている可能性もある。

(行政委員)

- ・宣言事業所の拡大をお願いしたい。

社保における健康経営の取組により、従業員が健康を意識することで、退職後の国保加入時においても健康な状態での切り替えとなり、国保としても助かる。

- ・県では、社保、国保のデータを併せてデータ分析中。データ分析については長い目での実態把握が必要。

(議長)

アンケート結果(資料2)の2頁より、最低基準となるベースプラン4項目において、実施結果が100%となっていない。完全実施をさせるためのフォローアップ等の取組が必要。

(事務局)

これまでは、まず宣言をして健康への取組を進めましょうと宣言事業所の拡大に向け取組を進めてきたところだが、事業取組を進め今回初のアンケートを実施し、実態が明らかになった。エントリー時の審査は行っており、健診実施状況により事業者健診結果データ提供の同意書も送っている。今後は、フォローアップの取組を進めていかなければならないと考えている。

(議長) アンケートのフィードバックは考えているか。次に繋がるので、ぜひフィードバックの実施をお願いしたい。

(事務局)

考えている。

(被保険者代表委員)

指導は勤務時間の調整も負担なので、今後はA Iの活用による個人対応にまで取組を広めることができるのでは。また、医療との連携により、ビッグデータの分析、活用も含め個人に対する働きかけの方法について検討されたい。

(事務局)

・保険者協議会等におけるビッグデータの活用。HPやメルマガ等での個人に対する情報発信。将来的にはA Iの活用も検討されている。

・指導では、協会が対応できない部分を委託により対応している。専用アプリへのアクセスやメール支援も可能である。

(被保険者代表委員)

受診率は上がってきていると思われるが、データは集まらないのか。健診データを吸い上げる工夫や仕組みが必要。運動好きが高じて血圧や心臓に影響したり、指導を受けてほしいのにも関わらず、なかなか受けなかったりと個人の嗜好による影響もあると思われ、個々へのアプローチの仕方にも工夫が必要。

(事業主代表委員)

健康づくりに対し、商工会としてはこれまで特段のことは行っていないが、今後は事務局に働きかけを検討したい。

議題3. 重症化予防対策取組報告について

資料に基づいて事務局より説明を行った。

【意見】 （保健医療関係者委員） 職場により課題は様々だが、50 人以上の事業所では、産業医の介入が好ましい。個々の健診結果にも目を通すため、受診の指示を出しやすく、状況確認もとれる。 ■事務局より連絡事項 ・ 次回開催については、平成 31 年 7 月から 8 月頃開催予定です。 以上、説明し会議終了とした。	
特記事項	・ 傍聴者 1 名（行政関係者）